

コロナ禍の中の青少年 街中の出会いから…

指導員の窓

世界中へと感染拡大を続ける新型コロナウイルスですが、国内でも昨年4月に緊急事態宣言が出され、不要不急の外出を控える『ステイホーム』を余儀なくされました。今なお、それまでの生活習慣を一変せざるを得ない状況は続いています。



昨今の補導の状況については、前年度までと違い、コロナ禍における休校中に禁止場所でのスケートボードが増えていましたが、学校再開後は落ち着いています。また、商業施設やゲームセンターなどへの聞き取りでも、巣ごもりの影響もあってか、大きな問題は起きておらず、全体の補導件数としては減少傾向にあります。

私たち指導員は、遅刻・怠学・喫煙・その他の迷惑行為を中心とした街頭での声かけ活動を行い、さらに「少年サポートセンターふくやま」において警察、教育委員会、福山市が一体となって、少年の非行防止・立ち直り支援・課題を抱える学校への関わりなどを中心に活動をしています。

顔を突き合わせて話したり、一緒に作業や活動するなど、対面で人と接することを控えなければならず、互いにソーシャルディスタンスが強いられる現状は、子どもたちとの関わりにおいて高いハードルとなっています。



そんな中、街頭で声かけをしているとき、一人の高校生と出会いました。

緊急事態宣言による休校中に体調を崩し、学校が再開しても体調が改善されないまま登校をしているということでした。マスクの下の表情を読み取ることは難しかったのですが、本人が直面していることを丁寧に話してくれました。「卒業したいのに…」との言葉には、かける言葉も見つからず、心苦しいばかりでした。

のちに、その高校生と再会する機会があったのですが、退学に向けて学校との話し合いで登校するところでした。私は思わず言葉を失ってしまったのですが、ただ、高校生は以前とは少し違っていました。

なぜなら、「体調と向き合いながら、大学進学を叶えられる選択肢もある」と少し目元を緩ませながらそう話してくれたのです。

前を向いている思いが伝わってきました。

「あなたなら大丈夫、でもまずは体調面を優先させて、周りの人を頼りながら目標を達成してね!」と伝えると、「まだ気持ちには波があるけど、切り替えて目標に向かっていきます!」と強く語ってくれました。

新型コロナウイルス感染症は、子どもたちにも大きな影響を及ぼしていることに心が痛みます。一日も早い終息を願い、出会う子どもたちに笑顔が伝わる対応が出来るように支援していけたらと思っています。(田坂)



こども110番の家協力件数

(2021年2月12日時点)

- ・設置件数・・・5,413件(前年比69件の減少)
- (うち 一般住宅 3,131件, その他 2,282件)
- 不審者駆け込み事例は1件
- 不審な車につけられたもの

プレートの設置のほか、
110番の家の周知、
見守り、危険個所の確認等

ご協力
ありがとうございます!



広島県子ども・若者支援機関マップについて

広島県では、ニート、ひきこもり、不登校、発達障がい、非行からの立ち直りなど、ご本人やご家族を支援している様々な機関や団体を紹介する「広島県子ども・若者支援機関マップ」を作成し、ホームページで公開しています。お悩みをどこに相談したらいいかわかるときの参考にしてください。

検索サイトより

広島県子ども・若者支援機関マップ

検索



支援機関マップHP

カフェイン中毒に気をつけて



“カフェイン中毒”と聞くと、想像するのはコーヒーやお茶の飲みすぎでしょうか？今、薬物依存の専門家が注目しているのは、エナジードリンクやカフェイン錠による若年者のカフェイン中毒です。

カフェインは、中枢神経を興奮させる生理作用があるので、適量摂取では、眠気を覚ます、頭がすっきりするなどのメリットがありますが、過剰摂取では、心拍数の増加や吐き気などの中毒症状が現れることがあります。

カフェインの生理作用

適量摂取	頭がすっきり、眠気を覚ます
過剰摂取	めまい、心拍数増加、興奮、不安、不眠、疲労感、吐き気、下痢など



日本中毒学会の調べでは（2016年）、5年間で101人が急性カフェイン中毒で病院に運ばれ、うち3人が死亡したとのことです。

カフェインを多く含む食品は、コーヒーをはじめ苦みを感じるために若年者が好まないものが多かったのですが、コンビニや自動販売機でも手に入るようになったエナジードリンクは、甘く口あたりが良いため、若年者も摂取しやすくなりました。

カフェインで出る元気は前借り、と言われており、摂り続けて体が慣れてくると、より多くのカフェインが必要になってきます。安くてカフェイン量の多い錠剤を服用するなど、依存する可能性も心配されています。



摂取者の中には、辛い日々を乗り越えるためにカフェインの効果を利用している子ども・若者もいるでは、とも言われています。

適正な摂取を促すために、見守りと声かけ、過剰に頼らなくて済む環境を整えたいものです。

参考：内閣府 食品安全委員会の資料

カフェイン摂取の上限の目安（1日当たり）

健康な成人	400 mg
子ども（10～12歳）	85
“（7～9歳）	62.5
“（4～6歳）	45
妊婦や授乳中の女性	300

※適正な摂取量には個人差があります。

中央青少年育成員のコーナー

地域の皆様こんにちは。私が育成員になりましたのは孫の休日の心配からでした。ある時、ふと部屋を覗いてみると、片隅でゲームに夢中になっている孫の姿がありました。それ以後、休日には動物園、遊園地、海岸、スポーツセンターなどいたるところに出かけましたが、外での遊びには限りがあります。部屋では学校の宿題に取り掛かる雰囲気づくりや教科書、ノートを開きはじめてから見守り活動を続けました。この孫は今、教員免許を取って仕事に出ています。

孫の遊園地散策の時、遊んでいる子どもがビニール袋を持って走っており、声をかけてそれを見ると、たばこの吸い殻でした。吸っていたのです。

その時、私はこの子どもたちに何かできることはないかと考えあぐねました。

「そうだ。私にはドラムがある。これを活用して子どもの居場所づくりをしたい。」

と考え、当時の公民館長の力添えを受けながらドラム教室を開き、あっという間の14年間でした。

思い出せば、ドラムを壊されたり調理室のガラス破損、玄関先のスリッパの散乱等元気のいい子どもたちの行動で散々な目に遭いましたが、大声をだしたり、テーブルを叩いて怒ることはしませんでした。何がいけないのか、どうするべきか、論しつづけました。しかし、まだまだ未熟者です。これからも専門の諸先生のご指導をうけながらもう少し頑張ってみようと思っています。（常石学区 平田）



編集後記



コロナ禍の中、世の中の生活様式が大きく変わろうとしている。学校でも休校があり、再開後もリモートによる授業や集会等が行われている。例年実施していた行事も軒並み中止や延期になっている。人と人とのつながりも薄くなっているのかもしれない。そんな中、学校になじめない子どもたちの生活がどうなっているのか気になるところである。世間から見落とされがちな子どもたちの先行きが不安なのは私だけでしょうか。考えてみませんか。（岡崎）

発行者 福山市青少年センター 〒720-0831 福山市草戸町5-12-3（青少年・女性活躍推進課内）
電話 084-928-1046 Fax 084-927-9121 seishounen-josei@city.fukuyama.hiroshima.jp



青少年センターHP

～毎月17日は「青少年の日」 毎月第3日曜日は「家庭の日」～